

新園寄せがき帖

五四

○その一……………倉 橋 生

一、「もしく、こちらは大塚のお茶の水幼稚園ですが、こんな電話が當分の間つゞいた。

一、あの立派な新園舎へ移るやうになつたら、私達も、よつほぎ新式な服装をしなけりやならないでせうか。——
バラック住る時代に、職員室でこんな聲を聞いたことがあ
るやうなので、如何なることにやなるらんき、そつミ氣を
つけて見てゐるたが(?)、別段氣取り出した人も、新化した
人もない。

一、冬になるき、咽喉をいためては、ちよいくお休
みをした年寄(幼稚園で一番の年寄)が、今年は一度も休ま
ない。床板の古くなつたバラックミ違つて、ほこりが立た
ない爲らしい。塵埃のないのは年寄ののぎにいゝ以上に幼兒
ののぎにいゝに相違ない。

一、公園の中へ建てたのでないから、建物が先きになつ
て、庭が後になるのは仕方がないが、自然味のある庭はそ
うに、わかには出来ない。これが目下の苦心。以前からある櫻
の古木が、佗しさうに春を迎へてゐるだけで、若々しい木
の芽も、草の花もない。蝶でも來たら何んミ言譯したら
いゝかと思ふばかりだ。蝶は、ほかへ行つて呉れるからいゝ
やうなものゝ、幼兒にはほんさうに濟まない。たゞまあ、
毎日こうして大勢の人夫ミ植木職ミの手で、一日々々ミ出
來上つてゆく庭の形ミ、次々に植ゑられてゆく樹木ミを見
て楽しんで呉れ。「園丁雜感」の著者が、此頃では字義通り
の園丁雜感で毎日苦勞してゐる仕末だから。

一、保育室の傍に小さな平たい地面がくつつけてあるだ
けでいゝのなら事はらくだが、幼稚園ミしては、園の中に

建物があるのでないさほんさうでない。さころで此の可なり小さくない鐵筋コンクリート化粧煉瓦の建築を、その一部分分して取り込むやうに此庭を造ることは骨が折れる。

東京女子高等師範學校の全敷地が幼稚園で、その中に此の建物だけがあるのであつたら、森に圍まれ、丘を越へて、小川を渡つて、牧場を彼方に、池を隔て、その中の綠園の一隅に此の建物を大して目立たないやうに置くことが出来るであろう。——庭の設計の青寫眞を見つめながら、「森の幼稚園」の作者は、さうさころさころな妄想に入る。

一、石川隆治氏の特別の好意を煩はした「玩具の仔熊を抱いてゐる女の子」のブロンズが出来上つて、遊戲室に飾られたのは嬉しい。震災前のお茶の水幼稚園舎を、繪畫、彫刻も一流の立派な作品で一ぱいに飾つて、小さい美術館のやうにしたいと思つてゐた慾望は、バラックになつてから一時休止してゐたが、それを再興したいものだと思つてゐる。たゞ何十年、何百年、何千年かゝるさころか知らない。

一、新園舎を訪ねて來られた人が、全體の色調に就てはめて下さるのは少々得意である。彫刻の石川さんも、繪畫

の石井柏亭さんも、これはいゝ言はれた。久留島武彦さんも大層氣に入つたさうで、新築内祝ひの時子さんも達へのお話の前置きの中で、こゝの色はさげ茶色ですね、こゝの色は、同じ茶色だがさうさうさう。皆さん、ほんさいふ色でせうねえ、例のやはらかいバスで笑ひながら問ひ試みられた位である。するさ一人の男の子が速座に答へて呉れた答へが嬉しい。「茶うす色」。

淺草寺社會事業部に

兒童教育相談所開設

それさ、斯界の權威者を聘して一般健康上の相談、就中精神發育に關係の深い既往並びに現在の神經系統の審査、智能性格の検査等、身體精神兩方面の相談に應じ、又必要の場合は兒童を一定期間預り教育の實際も引受けるさ。

場所 淺草公園觀音堂裏婦人會館内

相談日 毎週土曜日の午後一時より四時迄